

関彌三郎教授退任記念論文集 の刊行にさいして

経済学部長 小野一郎

関彌三郎先生は来る1987年3月末日をもって定年により立命館大学教授の職を退かれます。永年にわたって立命館大学と経済学部の発展につくしてこられた先生の多大の御功績をたたえ、ここにささやかながら御退任記念論文集を『立命館経済学』の特集号として刊行することとしました。

先生は1947年に立命館大学法文学部経済学科を御卒業の後、翌1948年本学が新制総合大学として発足したさい、法文学部の再編にともなって新設された経済学部の研究員になりましたが、1年後の1949年には専任講師に御就任、その後助教授を経て1963年以来今日に至るまで教授として統計学と経済統計学を講じてこられました。経済学部の独立・草創期から40年近くを本学部のために御尽力頂いたわけで、この間に先生は学部長などの要職につかれて全学および学部の運営の重責をになわれました。先生が研究と教育に残された偉大な足跡にたいして、立命館大学および経済学部は名誉教授の称号をお贈りすることといたしております。

先生は御専門の研究分野で、社会統計学全般および統計的方法や統計的調査法、さらには日本や京都の産業・人口・労働・国民生活などの統計的分析に関する多くの著書・論文・翻訳を発表しておられます。大学卒業直後の1年間京都府地方労働委員会事務局で実地の調査にたずさわられたことが、社会統計学を生涯の専門とされるきっかけとなったとお聞きしていますが、先生の数々の御労作からは手堅い実証を重んずる誠実な学風がうかがわれます。本論文集には専門を同じくされる本学以外の方々からも御寄稿を頂いています。先生の学問上の御貢献と御人徳にたいする学界の評価を物語るものであります。

先生は後進の指導の面でも、一般の学生にとってそれほど理解が容易ではない統計学や経済統計学の内容を、整理された平明なかたちに組立てて講義することに貫して心を碎いてこられました。私事にわたって恐縮ながら、先生が学部長の折、私は学部主事として1年間先生の補佐を仰せつかり直接御指導を頂くことができましたが、日頃は寡黙でまたお身体に故障を抱えておられる先生のお仕事ぶりは誠実そのもので、私は無言のうちに深い御教示に預かりました。このような先生を経済学部から失うことは大きな痛手であり、私どもの惜別の思いには切なものがあります。

しかし先生は本学部に引き続き講師として御出講下さることを御承諾頂いておりまし、またこれまで積重ねてこられた御研究の集大成をまとめていきたいとの御意向とも伺っています。今後とも後進への御指導をよろしくお願ひ申し上げますとともに、御健康と御研究のいっそうの御発展とをお祈り申し上げて、先生をお送りすることばとさせて頂きます。

1987年2月